

群 教 セ	E03 - 03
	平17.228集

# 身近な社会的事象について主体的に調べ、 考え、生かす指導の工夫

— 課題選択学習におけるリーフレット作りを通して —

特別研修員 西岡 毅 (吉井町立吉井西小学校)

## 《研究の概要》

本研究は、小学校の社会科学習において、課題選択学習の過程にリーフレットを作る活動を位置付けたものである。児童は、自分の興味・関心のある課題を選択して学習し、学んだことをリーフレットに表現していく。それを基に話し合いをもち、新しい考えにふれたり自分の考えを深めたりする。再びそれをリーフレットに表現して発信し、意見や感想をもらい、学習したことを生かしていこうとする意欲につなげるための活動を行った。

**キーワード** 【社会一小 問題解決学習 課題選択学習 リーフレット】

### I 主題設定の理由

めまぐるしく変化していく現代社会において、児童が主体的、創造的に生きていくためには、社会的事象に関心をもって進んでかかわり、それらの意味を多面的に考察し、公正に考えたり判断したりできるようにすることが大切である。そのためには、自ら学ぶ意欲、思考力や判断力、表現力などの資質や能力の育成を重視し、児童一人一人が主体的に社会的事象を調べ、考え、生かしていけるようにすることが重要である。

これまでの児童の実態を見た場合、児童は、新聞作りなどの表現活動が上手で、直接視覚にうったえるような作品を意欲的に仕上げてきた。また、そこから学び取る能力にも優れていると感じた。一方、児童は、「見学や体験をたくさんしたい。」「動いて調べたり、調査をしたりしたい。」「本やパソコンで興味をもったことを調べたい。」という欲求を強くもっており、児童自身も主体的に社会的事象を調べていきたいと思っているように考えられる。しかしそこには、「見学や体験が遠足のように楽しい。」「座って授業を受けているよりは、調べたり調査したりする方が楽しい。」「パソコンを操作すること自体が楽しい。」という考えがあることも否めない。したがって、それらの活動を単純に取り入れただけでは、調べる活動だけで終始してしまい、そこから社会的事象を多面的に考察し、公正に考えたり判断したりできる力を養うことは困難であろう。児童が、社会的

事象を多面的に考察し、公正に考えたり判断したりできるようにするためには、児童の視覚的に学び取る能力や表現力を生かしつつ、社会的事象を主体的に調べ、考えることができるように指導を工夫改善していく必要がある。

児童が主体的に調べ、考えることができるようにするためには、学習素材を児童の身近なところから発掘し、教材化していくことも重要である。さらに、児童が社会的事象を自分自身の問題としてとらえ、主体的に思考し判断をすることができるよう、問題解決的な学習を取り入れる必要がある。問題解決的な学習においては、ただ単に「調べる」「調べてまとめる」だけであっては、思考を深めるには至らない。思考を深めるためには、児童が目的をもって調べられるようにし、考え合う機会を設定していかななくてはならない。そして、その考えを表現できる場の設定が必要であろう。表現することにより、その考えを問い直したり、いろいろな考えを統合したりして、さらに考えを深めることができるからである。また、表現したものを第三者に発信することにより、意見やアドバイスを受け、考えを見つめ直し、今後の学習や生活に生かしたり、さらなる意欲につながったりするものであると考える。

そこで、本研究では、これまでの児童の体験や社会的事象へのかかわり、児童の興味・関心の多様性を考慮して、課題選択学習を取り入れていくこととした。それにより、児童は、社会的事象に対して自分なりの目的意識をもって取り組むこと

ができるであろう。次に、調べたことを発表して話し合う学習を取り入れ、自分の考えを確認したり修正したりして、考えを深めていく。さらに、それらの学習を通して学んだことを、リーフレットを作って表現し、発信していく。学習過程毎に考えをまとめてリーフレットに表現したり、いろいろな考えを総合してリーフレットを作り直したりすることや、それ発信して意見や感想をもらうことは、自分のこれまでの考えを吟味し直すことでもあり、学習を通して獲得した知識や考え方をその後の学習や生活の中に生かしていこうとすることにつながるであろう。これらの一連の学習を通して、児童一人一人が主体的に調べ、考え、生かすことができることを考え本主題を設定した。

## II 研究のねらい

課題選択学習の過程にリーフレットを作る表現活動を位置付けることにより、児童一人一人が身近な社会的事象について主体的に調べ、考え、生かすことができるようになることを、実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

課題選択学習におけるリーフレット作りにおいて、次の3段階の手順により、児童一人一人が身近な社会的事象について主体的に調べ、考え、生かすことができるようになるであろう。

- 1 課題をつかむ過程、調べる・考える過程において、児童の興味・関心に応じた課題選択学習を取り入れれば、児童は身近な社会的事象について自分なりの目的意識をもって取り組むことができるであろう。
- 2 深める過程において、発表会や話し合い活動を取り入れることにより、自分の考えを確認したり修正したりして、考えを深めることができるであろう。
- 3 広げる・生かす過程において、学習したことをリーフレットに表現して発信し、意見やアドバイス、感想をもらうことは、自分の考えを見つめ直し、学習を通して獲得した知識や考え方をその後の学習や生活の中に生かしていこうとする意欲につながるであろう。

## IV 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 主体的に調べ、考え、生かすについて

本研究において、主体的に調べ、考え、生かすとは以下の3点が備わったときである。

- 社会的事象に対して自分なりの目的意識をもって取り組むことである。社会的事象のもつ意味を追究しようとする関心と意欲、態度が備わったとき、子供たちは主体的に調べているといえる。
- 社会的事象を自分自身や自分の生活と関連させて考えることである。社会的事象を他人の問題としてとらえたり、単なる知識のレベルで理解していたりするのでは、主体的に調べ、考えているとはいえない。これまでの生活経験と照らし合わせて、考えを確認したり修正したりして、考えを深めることができたとき、主体的に調べ、考えたといえる。
- 学習を通して獲得した知識や考え方をその後の学習や生活の中に生かそうとすることである。主体的に調べ、考え、生かすとは、自分の生き方や生活を見つめ直すことにつながることもある。

#### (2) 課題選択学習におけるリーフレット作りについて

本研究では、主として、課題選択学習にリーフレット作りを取り入れる。児童は、自分の興味・関心に応じた課題を選択して調査活動を進め、リーフレットにまとめていく。課題は、その単元の学習内容を考慮して設定し、児童が選択をする。授業に課題選択を取り入れることにより、児童の関心・意欲に応じることができ、児童は目的意識をもって取り組み、また、自分自身や自分の生活とのかかわりと関連付けて学習していくことができる。そして、社会科で育てたい自ら調べる意欲や態度、能力などを獲得していける。

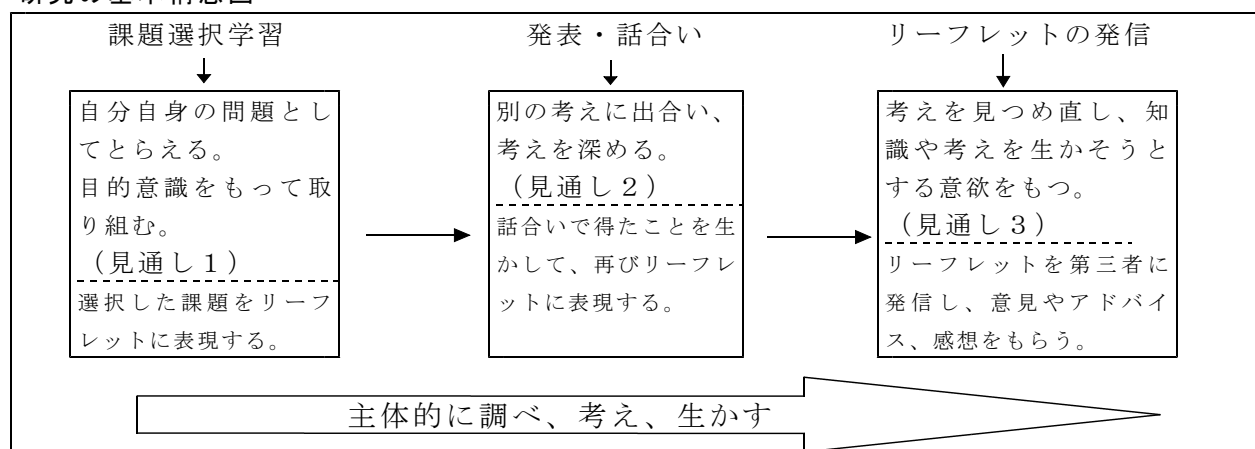
しかし、本研究の対象としての児童は、ここまでの学習では、一つの課題を選択して追究してきたので、他の課題と比較して考えることはできていない。そこで、発表会を行い、話し合いを進める中で、個々に調べた結果を相互に比較して、共通点や相違点を発見していく。これにより、社会に対する見方や考え方をより確かなものにしていくことができ、考える力や応用力のある知識を獲得することができる。

これらの学習を通して学んだこと、自分で調べたことや友達の発表を聞いて考えたことを統合して、再びリーフレットに表現する。さらに、それを第三者に発信し、いろいろな立場から意見やアドバイス、感想をもらう。これにより児童は、さらに深く追究を進めていこうとする新たな意欲や、考えや知識を生活に生かしていこうとする意欲がもてる。

リーフレットは、作りやすさや見やすさを考慮してA4版見開きを基本とし、その単元の構成によりページ数を増減する。リーフレットの良さと

しては、視覚的に学び取れること、児童の自由な発想を生かせること、文章が苦手な児童であっても表現が可能であるということが考えられる。また、作製途中での指導が容易でもある。従前の新聞作りなどの活動では、できあがった作品に対して評価・指導をするという事後の指導に片寄りがちであった。しかし、リーフレットでは、表現したい項目をいろいろな形のカードに書き、仮留めしながら作成を進めるなどの方法を用いることで、作製途中での評価や指導、それによる項目の取捨選択やレイアウトの修正も可能である。

### 研究の基本構想図



## 2 研究の方法

### (1) 授業実践計画と検証計画

対象	吉井西小学校5年2組 (25名)	単元名	自動車をつくる工場 (12時間)
実施期間	平成17年10月下旬～11月上旬		
検証項目	検証の視点		検証の方法
見通し1	課題をつかむ過程、調べる・考える過程において、児童の興味・関心に合った課題選択学習を取り入れることは、児童が社会的事象に対して自分なりの目的意識をもって取り組むことができるようになるために有効であったか。		・観察 ・リーフレット②の作品 ・発表用原稿
見通し2	深める過程において、自分が選択し、調べたことについて発表会や話し合い活動を取り入れることは、自分の考えを確認したり修正したりして、考えを深めることに有効であったか。		・話し合いの観察 ・ワークシート ・感想
見通し3	広げる・生かす過程において、学習したことをリーフレットに表現して発信し、意見やアドバイス、感想をもらうことは、自分の考えを見つめ直し、学習を通して獲得した知識や考え方をその後の学習や生活の中に生かしていこうとする意欲につながったか。		・リーフレット③の作品 ・感想 ・観察

### (2) 抽出児

A子	表現力に優れ学習内容を効果的にリーフレットに表すことができる。自動車産業には興味をもっていないので、関心のある課題をつかませて意欲を持続させたい。自分自身の考えをしっかりと、友達の意見からも謙虚に学ぶことができるが、自己を主張することができないので、自信をもって取り組めるようにしたい。
B男	関心・意欲はあり、進んで調べようとするができるが、調べた結果をまとめたり表現したりすることは苦手である。少ない文字数でも効果的に表現できることを分からせ、キーワードをおさえることを学ばせたい。また、自分の考えはもてても、記述することが苦手であるので、随時対話を行い、考えを引き出した上で記述をさせていきたい。

## V 研究の展開

### 1 単元・題材等の考察と目標、評価規準

単元の考察	本単元は、学習指導要領の第5学年、目標(1)(3)、内容(2)に基づき、具体的に教材化したものである。本単元では、自動車づくりに携わる人々が、消費者の多様な願いや環境面などの社会的な要請に応えるために、様々な努力や取り組みをしていることを学習する。この学習を通して、工業生産に従事している人々の工夫や努力、これらの産業が国民生活を支える重要な役割をしていることや、国土の環境と深いかかわりをもっていることを理解できる。また、我が国の産業の発展に関心をもてるようになれると考え、本単元を設定した。	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の自動車工業の現状や課題について興味・関心をもち、意欲的に調べる。</li> <li>自動車工業に従事している人々が、原材料の確保や製造の過程、製品の販売や消費地への輸送、新しい技術の開発、資源の有効な利用と確保、環境保全への取り組みなどにおいて、様々な工夫や努力をしていることをとらえる。</li> <li>各種の資料を活用して、日本の自動車工業の現状や課題についてとらえ、国民生活の向上や産業の発展に果たしている役割について考えをもつことができる。</li> </ul>	
評価	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況
	自動車工業の生産の様子について、資料を積極的に収集して調べ、それらの活動を通して、人と環境に優しい自動車づくりに関心をもつことができる。	自動車工業の生産の様子について意欲をもって調べ、それらの活動を通して、人と環境に優しい自動車づくりに関心をもつことができる。
規準	自動車生産が効率よく、しかも安定して行われているわけについて、関係する人々の協力や関連工場との協力、機械やロボットによる生産の工夫などと関連付けて考えることができる。	自動車工場で働く人々の工夫や努力、自動車の開発などの目的や意味について考えることができる。
	写真や働く人の話と、各種の統計資料を目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取り、自動車生産の特色をとらえることができる。	写真や働く人の話と、各種の統計資料を目的に応じて読み取り、自動車生産の特色をとらえることができる。
準	社会的な思考・判断	
	自動車工場の生産の特色と課題、働く人々の工夫と努力、これからの自動車づくりは人や自然との共生を考慮しながら進めていく必要があることについて理解することができる。	自動車工場の生産の特色と課題、働く人々の工夫と努力、乗る人の願いや社会情勢を考慮した自動車づくりについて理解することができる。

### 2 指導計画

過程	時間	主な学習活動・内容	形態	支援及び留意点	評価項目(評価方法)
つかむ	1	○これからの学習過程(リーフレット①②③の作成)について確認する。	一斉	・学習の大まかな流れを理解できるようにする。	
	2	【見通し①】(検証は主として調べる・考える過程) ○自動車を利用する人たちが、どんな車に乗りたいと考えているか、聞き取り調査をしたり、自分はどのような自動車に乗りたいかを考えたりして話し合う。 ○「安全な自動車」、「だれにでも運転できる自動車」、「環境にやさしい自動車」その他、自動車産業の今日的課題の中から自分の興味のある課題を選択し、自己の課題とする。	個人 一斉 個人	・家の人がなぜ今の車を選んだか、今度はどんな車に乗りたいか等、理由もあわせて調査できるようにする。 ・聞き取り調査の結果及び自己の経験や興味などを十分に考えて選べるようにする。	・人々がどんな車に乗りたいと考えているか、進んで調査をする。(関)【ワークシート】 ・興味ある課題を選択し、進んで調べようとする意欲がもてる。(関)【観察、ワークシート】
調べ	3 4 5	○自動車の生産過程や工場の様子、関連工場との関係、働く人たちの工夫や努力、願いについて、また、自分の選んだ課題について、資料を調べたり、工場見学や聞き取り調査をしたりす	一斉 個人	・一人で調べるのが困難な児童は、同じ課題をもつ児童とグループになって進めるように支援する。 ・自動車のカタログ等参考資料を豊富にそろえてお	・自動車を早く、正確に、安全につくるための工夫や、働く人たちの努力が分かる。(知)【観察、リーフレット作品、ワークシート】 ・自己の課題について意欲をも

る・考 え る	6	る。		く。 ・工場見学では、同じ課題 同士で質問内容を検討さ せ、質問を整理しておく。	って調べることができる。 (関)【観察】
	7	○自分自身を自動車工場の経営者 に見立て、自分の工場の様子や 生産過程、アピールする点など をリーフレット①に表現する。	個人	・予め資料における重要ポ イントや見学における視 点を明確にしておき、表 現する際には重要な事項 を中心に書くようにする。	・工場の様子や生産過程、安全 対策や工場内環境の整備など をリーフレットに表現でき る。(表)【リーフレット作品】
	8	○自分の選んだ課題について、リ ーフレット②に表現する。	個人	・よい点ばかりではなく、 結果として悪くなってし まう点にも着目できるよ うにする。	・自己の課題について調べた結 果をリーフレットに表現でき る。(表)【リーフレット作品】
深 め る	9	【見通し②】 ○選択した課題について発表会を する。 ○自分で調べた課題との相違点や 共通することについて話し合 う。	個人 一斉	・一人の発表が困難な児童 はグループで発表する。 ・他の自動車の良い点に気 付き、その良さを受け入 れられるように支援する。	・自分で調べたものと友達が調 べたものの相違点や共通点に 気付く。(思)【観察、ワーク シート】
広 げ る ・ 生 か す	10 11	【見通し③】 ○自分で調べたことと話し合った 結果をもとに、近い将来実現の 可能性があることを条件とし て、自分の理想とする自動車を 設計し、リーフレット③に表現 する。	個人	・これまでの学習を十分に 振り返えるようにする。 ・これからの自動車社会に 必要なものは何かにつ いてもよく考えられるよ うにする。	・理想とする自動車を設計し、 リーフレットに表現するこ とができる。(思、表)【観察、 リーフレット作品】
	12	○リーフレットを友達、家庭、自 動車関係者などに発信して意見 やアドバイスをもらう。 ○まとめの感想を書く。	個人	・自分の考えが評価された ことについての喜びを味 わえるように助言する。 ・アドバイスについては、 それをさらに生かしてい けるように支援する。	・意見やアドバイスを受けて、 新たな意欲や、考えや知識を 生活に生かしていこうとする 意欲がもてる。(関) 【ワークシート、感想】

## VI 研究の結果と考察

### 1 児童の興味・関心に応じた課題選択学習を取り入れることは、児童が社会的事象に対して自分なりの目的意識をもって取り組むことができるようになるために有効であったか

つかむ段階で児童は、保護者や知り合いの人たちに、「どのような理由で自動車を選んでいるか」「今後どのような自動車に乗りたいか」について聞き取り調査を行った。「安全性を考えて」、「子どもがいるので広い車」、「小回りが利く」、「維持費が安い」、「仕事のため」、「環境に配慮した自動車」、中には、「カッコいい外車」、「スピードの出るスポーツカー」など、様々な回答を得た。また、児童自身もどんな自動車に乗りたいかを考えた。その結果と聞き取り調査の結果とを基にして課題を分類していった。その中から、児童がこれまでの経験や自分自身の生活等を考慮して、最も興味・関心のあるものを選択し、自己の課題とした。結果は、25名中「安全な自動車」7名、「福祉車両」6名、「環境にやさしい自動車」12名となった。「環境にやさしい自動車」に児童の関心

が集中したのは、本校のこれまでの環境教育の実践や、省エネ推進モデル校としての実践の積み重ねがあったからであると考えられる。「安全な自動車」については、「過去に事故の経験があるから」、「危ない思いをしたことがあるから」などの理由からである。「福祉車両」については、「同居している祖父母がもっと年をとったときにも楽に運転してもらいたいから」、「だれでも自動車に乗って便利になってほしいから」という理由を挙げている。このように、児童ははっきりとした理由をもって課題を選択することができた。抽出児A子は、「母親が一度事故に遭っているので安全な自動車について調べてみたい」という理由から「安全な自動車」を選んでいる。B男は、「地球温暖化がこのまま進むと困るから」という理由で「環境にやさしい自動車」を選択した。

次時の調べる・考える過程までには、資料として使用する自動車のカタログが70数冊も集まった。さらに、始業前から調べ活動や作業に取りかかるなど、児童の意欲の高まりが感じられる。工場見学では、それぞれが自己の課題に応じて、もっと詳しく知りたいこと、よく観察しなくてはな

らないこと、質問したいことなどの、自分自身の学習すべきポイントが明確になっていたため、大変意欲的に見学を進めることができた。

A子は、課題をつかんだ直後から自分なりの構想が出来上がっていたため、黙々と調べ、工夫して表現していった。普段は人前で話をするのを苦手とし、遠慮がちなA子であるが、工場見学では進んで質問をし、自分の納得のいくまで工場の人とやり取りをすることができた。

B男は「環境にやさしい自動車」ということで、「燃費がいい」、「排ガスが少ない」ということをあげた。しかし、それ以上のことを調べることができない。「燃費をよくするためには」「排ガスを少なくするためには」ということについても考えられない状態であった。友達に相談していたが、話が理解できなかつたり、友達も自分のことで夢中になっていたり、意欲を失いかけてきたが、ソーラーカーに乗って旅をするテレビ番組を見たことを思い出した。「ソーラーカーは燃費がいいどころか、全然ガソリンを必要としない」「排ガスも全く出ない」ということが分かり、「天気が悪い日はよく走れない」「スピードが出ない」という欠点まで見つけ出すことができた。この欠点をカバーするような方法を考え出していきたいと言い、B男はソーラーカーについて意欲的に調べ、表現していった。

このように児童は、自分の興味・関心のある課題を選択し、目的意識をもって取り組むことができたといえる。

## 2 深める過程において、自分が選択し、調べたことについて発表会や話し合い活動を取り入れることは、自分の考えを確認したり修正したりして、考えを深めることに有効であったか

学習にあたり、自分自身を工場の経営者に見立てることとした。そして、リーフレットの1枚目に工場の様子や生産過程、努力や工夫、環境や働く人々への配慮をまとめた。2枚目には自分の選択した課題について表現した(資料1)。

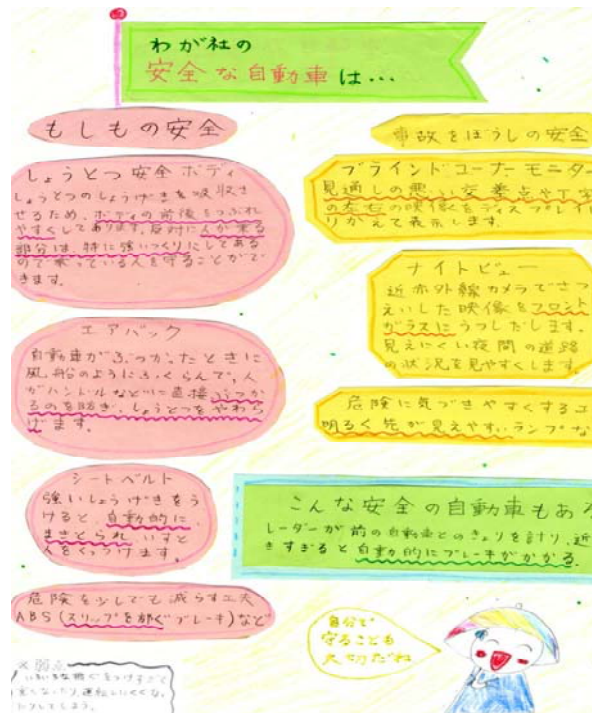
深める過程においては、自分が選択をした課題について、課題の人数バランスを考慮した3グループに分かれて発表会、質問及び話し合いをした。

本学級は控え目な児童も多く、話し合いの力や口頭での発表力がやや劣る。しかし、学級全体への発表ではなく3グループに分けての発表・話し合いにしたことや、発表することよりも友達の説明を

よく聞いて吸収することに主眼をおいたために、かえって活発に話し合いが進んだ。また、リーフレットの3枚目には、自分の調べた課題や友達の調べた課題を総合して、理想の自動車を設計するという目的をもって話し合いを進めていたため、熱心に質問をしたりメモをとったりして、意欲的に話し合いをすることができた。

発表の中には、「どうしても家にこもりがちになってしまう障害のある方の行動範囲を広げるために、障害者自身が運転できて、しかも障害のある方を乗せることができる自動車」というような、その車のもつ意義までも考えて説明をする児童もいた。A子は「安全な自動車」について、「事故を防ぐための工夫」と「事故が起きてしまったときに身を守る工夫」に分けて説明をし、最後に、「どんなにいろいろな装置を付けても、“安全は自分で守るもの”という気持ちを忘れずに」と、自分の考えを付け加えた(資料1)。

資料1 リーフレットの2枚目(A子の作品)



自己選択課題について表現したリーフレット

今回の発表では、グループ発表の形態をとったため、上記の児童の考えや、他のグループにはなかった考え(B男のソーラーカーを含む)は、指導者が学級全体に紹介をし、興味がある事項については後で詳しく聞いてみるように勧めた。時間等の設定は特に伝えずにいたが、次時の始まる前には、すでに車座ができ、前時に違うグループだ



由で「環境にやさしい自動車」を自己の課題としてきた。その点を認めてもらったことにより、最後に、「この勉強をしたことで、今よりももっと自然にやさしくすることを考えていきたいと思った。」と書き、環境問題にこだわり続け、さらなる追究の意欲を見せている。

自己主張が苦手な、優れた資質をもちながらも自信をもてないA子は、話し合いの時「発表の音が少し小さかった。」と反省をしている。しかし、文章表現力や絵画的表現力に優れたA子は、リーフレットについてたくさんのほめ言葉をもらった。そして、「この次もこういう勉強をしたい。」と感想に書いた。このことは、リーフレットを作って発信したことが、A子にとって大きな自信につながったものであると考える。

B男は、父親よりアドバイスを受け、「夢を大きくもって大人になったら実現させてください。」と結ばれている感想をもらった。それに対して、「リーフレットを見てもらい、いろいろ細かいところを書いてもらった。これからはいろいろがんばっていこうと思った。」と感想を書いた。

その他、意見やアドバイス、感想をもらった後の児童の感想は次のようなものである。

〇〇についてアドバイスをもらったので、今度はそれをもっと勉強したいと思った。(多数)  
「この装備でも安く買えるような自動車を考えてみたいと思った。」(2名)  
「実現すればすごくいい社会になるねと言われたので、1日でも早く実現させたいと思っている。」  
「将来自動車を買うときが来たら、この勉強を思い出そうと思った。」(多数)  
「地球やみんなのためになることを、これからはいろいろ考えてみたいと思った。」  
「〇〇について、もっといろいろな勉強をしてみたいと思った。」(多数)

このように、アドバイスを受けたところを改善するための学習をしたいという意欲を見せたり、ほめられたところや興味をもったことをさらに深く学習したいという意欲を見せたりしている。また、この学習を通して得た知識や考えを、自動車に限らず、環境問題や福祉、安全対策などに生かしたい。工業製品のバリエーションやユニバーサルデザインについても考えを生かして勉強してみたいという意欲も見せている。

これらのことから、リーフレットを発信して意

見やアドバイス、感想をもらうことは、自分の考えを見つめ直し、学習を通して獲得した知識や考え方をその後の学習や生活に生かしていこうとする意欲につながったといえる。

## VII 研究のまとめと今後の課題

- 児童が最も興味のもてる課題を選択して学習することは、児童が目的意識をもって活動し、意欲を持続させて取り組むことに有効である。また、次の共通課題（目的意識）をもって話し合いに臨むことは、自分の考えを確認したり深めたりすることに有効であることが明らかになった。
- リーフレットを発信して意見やアドバイス、感想をもらうことにより、児童は自信を高めたり自分の考えを見つめ直したりして、さらなる追究の意欲、学習したことを今後の学習や生活に生かしていこうとする意欲につながることが明らかになった。
- 本単元の学習においては、児童の意欲が高く、それに対応していくには相当の時間数が必要になってくる。特に、リーフレット作りに対しては、凝った作品を丁寧に仕上げていきたいと思う児童が多く、納得のいくまで対応できる時間の確保が課題になってくる。
- リーフレットの発信相手をもっとたくさん確保できたら、いろいろな立場からの意見やアドバイス、感想がもらえ、さらに広がりのある学習ができたであろう。

### 〈参考文献〉

- 文部科学省 『小学校社会科指導資料「新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造」』 東洋館出版（平成5年）
- 文部科学省 『小学校社会科指導資料「新しい学力観に立つ社会科の授業の工夫」』 大阪書籍（平成7年）
- 文部科学省 『初等教育資料』平成16年7月号 東洋館出版社（平成16年）



